



C&F LOGISTICS

2020年度第2四半期

# 決算説明資料

株式会社C&Fロジホールディングス

# 決算概要(ハイライト)

## ■ 営業収益

**56,267百万円**  
(前期比+1.0%)

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、

- ▶ 巣ごもり需要拡大により、量販店等で取り扱われる市販用冷凍冷蔵食品の取扱物量が増加。
- ▶ テレワーク・外出自粛の浸透ならびにインバウンド需要の減少により、飲食店向けの業務用食品や都心オフィス街・駅構内・空港のコンビニエンスストア等の店舗向け食品の取扱物量が減少。

## ■ 経常利益

**3,438百万円**  
(前期比+28.5%)

- ▶ 原油単価の大幅下落による燃料費の減少。
- ▶ DC事業において、巣ごもり需要拡大による取扱物量増加などの増収に伴い大幅に増益となった。
- ▶ TC事業における減収に加え、作業員の正社員登用を含めた従業員数の増加および従業員の処遇改善により労務費が増加し、利益を圧迫。

# 決算概要(ハイライト)

(単位:百万円)

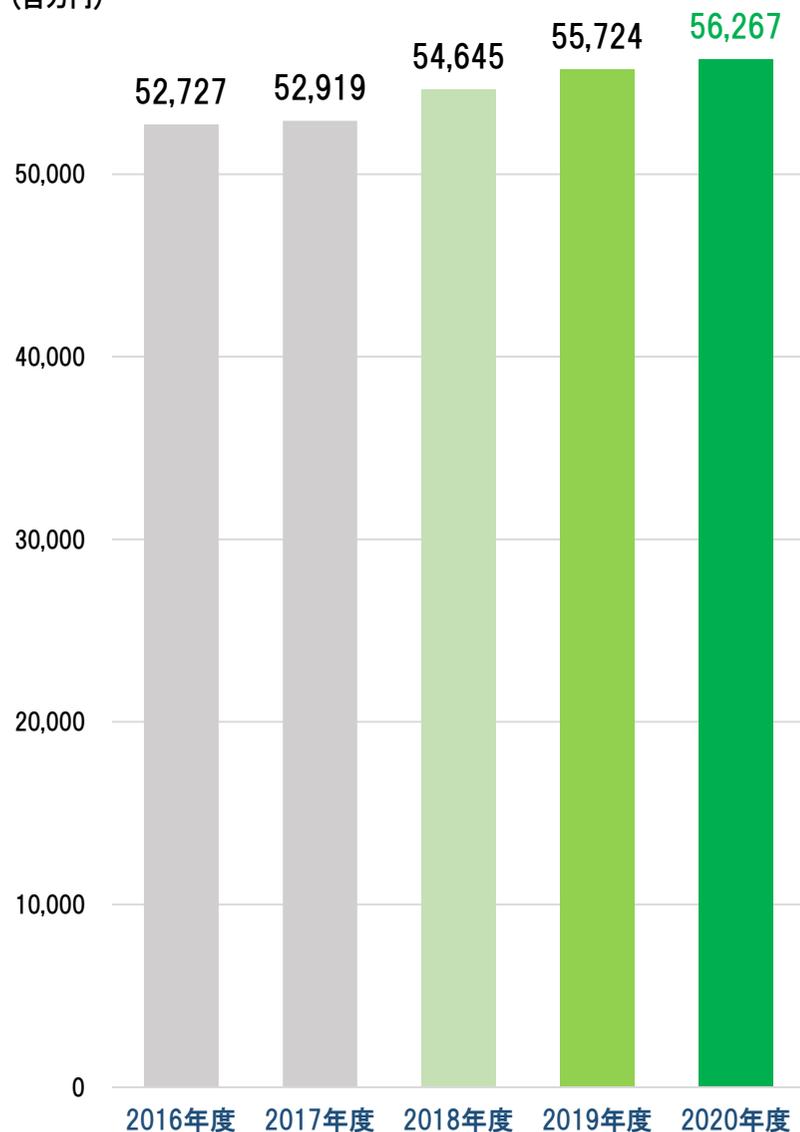
	前期実績		当期実績				(参考)当期業績予想 <sup>(注1)</sup>		
		収入比		収入比	対前期 増減額	増減率		収入比	対当期実績 増減額
営業収益	55,724	100.0%	56,267	100.0%	543	1.0%	56,400	100.0%	△ 132
営業原価	50,983	91.5%	50,995	90.6%	12	0.0%	-	-	-
販売費及び一般管理費	2,109	3.8%	1,981	3.5%	△ 128	△6.1%	-	-	-
営業利益	2,630	4.7%	3,290	5.8%	659	25.1%	3,400	6.0%	△ 109
経常利益	2,675	4.8%	3,438	6.1%	763	28.5%	3,400	6.0%	38
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,785	3.2%	2,297	4.1%	511	28.6%	2,200	3.9%	97

(注1)2020年8月7日付で公表した2020年度の第2四半期業績予想値になります。

# 決算概要(推移)

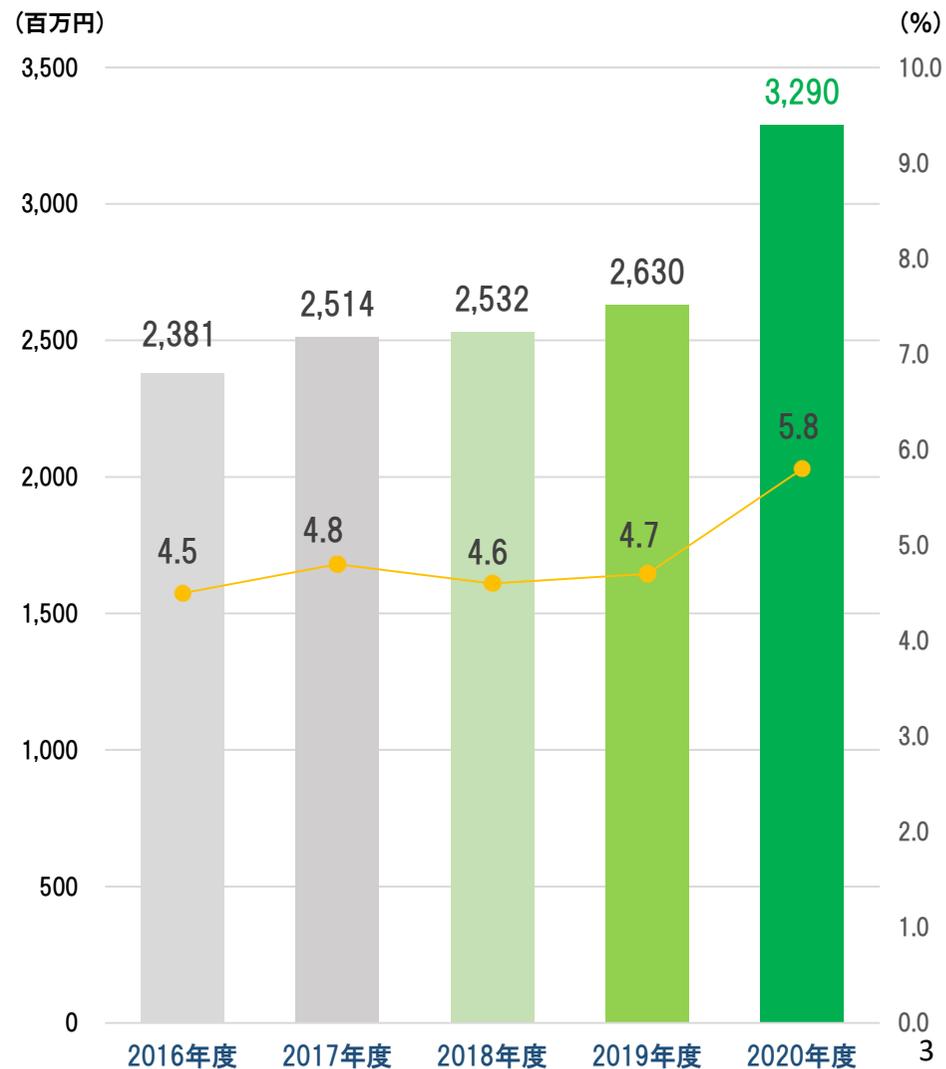
## 営業収益

(百万円)



## 営業利益

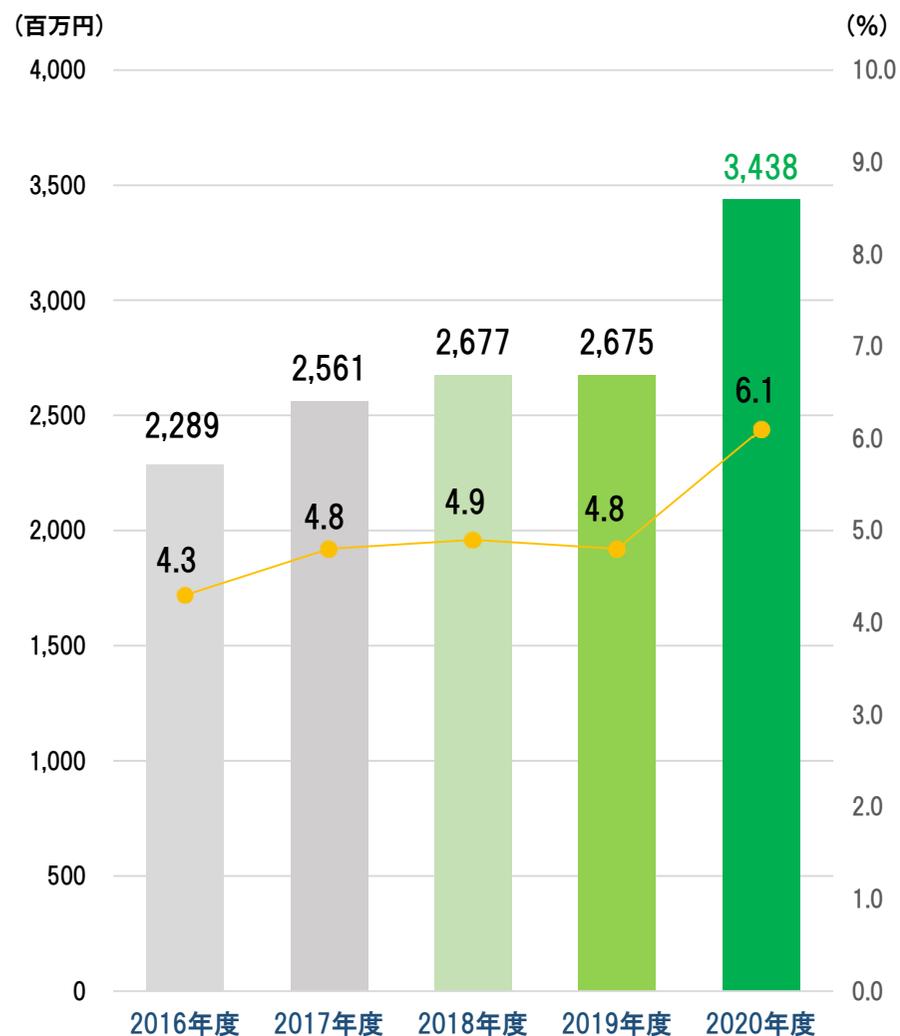
● 利益率



# 決算概要(推移)

## 経常利益

●利益率



## 親会社株主に帰属する四半期純利益

●利益率



# セグメント別営業収益および利益の概要

(単位: 百万円)

		前期実績		当期実績			主な増減要因
			構成比		構成比	対前期増減率	
<b>TC事業</b> <small>(通過型センター事業) Transfer Center</small>	営業収益	36,985	66.3%	36,830	65.4%	△0.4%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都心オフィス街、駅構内、空港のコンビニエンスストア等の店舗向けチルド食品の取扱物量減少</li> <li>・巣ごもり需要拡大による市販用食品の取扱物量増加</li> </ul>
	<b>セグメント利益</b> (利益率)	2,688 7.3%	55.7%	2,634 7.2%	49.4%	△2.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従業員数増加および従業員の処遇改善による労務費の増加が利益を圧迫</li> <li>・原油単価下落による燃料費の減少</li> <li>・幹線便の自社化等の業務内製化による外注費削減</li> </ul>
<b>DC事業</b> <sup>(注1)</sup> <small>(保管在庫型物流事業) Distribution Center</small>	営業収益	17,805	32.0%	18,508	32.9%	3.9%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巣ごもり需要拡大による市販用冷凍食品の取扱物量増加</li> <li>・飲食店営業自粛等による業務用冷凍食品の取扱物量減少</li> <li>・適正料金の收受</li> </ul>
	<b>セグメント利益</b> (利益率)	1,998 11.2%	41.4%	2,593 14.0%	48.7%	29.8%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原油単価下落による燃料費の減少</li> <li>・従業員の処遇改善に加え、取扱物量増加に伴う業務負担増を人材派遣・外注先で対応したことで労務費、外注費が増加</li> <li>・取扱物量増加などの増収に伴い、増益</li> </ul>
<b>その他</b> <sup>(注2)</sup>	営業収益	933	1.7%	929	1.7%	△0.4%	
	<b>セグメント利益</b> (利益率)	137 14.8%	2.9%	102 11.0%	1.9%	△26.0%	

(注1)『DC事業』にはベトナム事業が含まれております。

(注2)『その他』には警備輸送業、病院等関連物流業、人材派遣業、および保険代理店業等が含まれております。

# 業態別営業収益の概要

(単位:百万円)

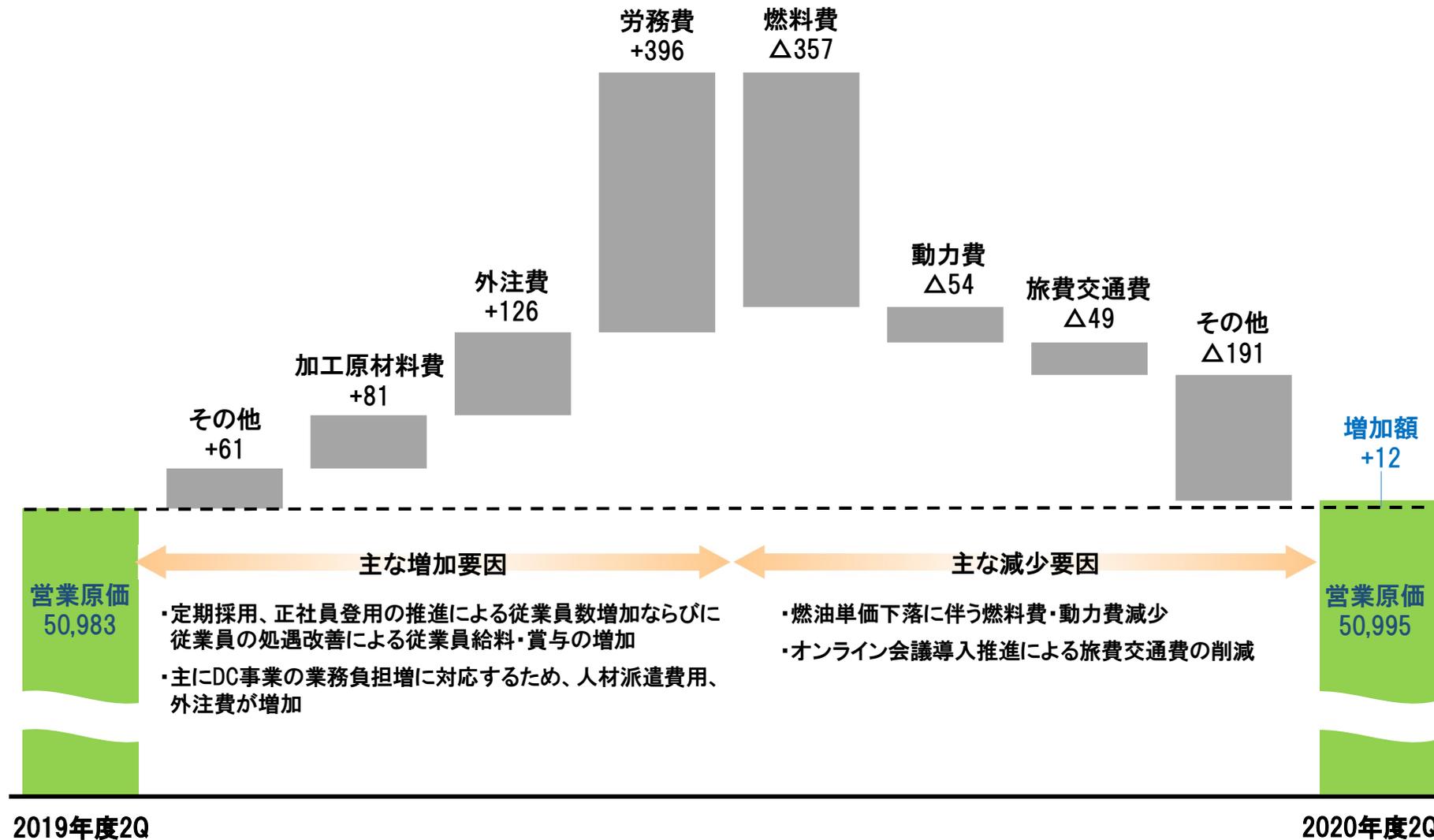
	前期実績		当期実績				主な増減要因
		構成比		構成比	増減額	増減率	
共同配送 (注1)	32,284	57.9%	32,636	58.0%	351	1.1%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市販用食品の需要増加に伴う取扱物量増加</li> <li>・業務用冷凍食品の取扱物量減少</li> <li>・適正料金の收受</li> </ul>
コンビニエンスストア物流	7,907	14.2%	7,617	13.5%	△ 290	△3.7%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テレワーク、外出自粛等による都心オフィス街、空港内の店舗向け食品の取扱物量減少</li> </ul>
チェーンストア物流	6,957	12.5%	7,236	12.9%	278	4.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市販用食品の需要増加に伴う取扱物量増加</li> </ul>
問屋物流	4,824	8.7%	4,996	8.9%	172	3.6%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・量販店向け市販用食品の需要増加に伴う取扱物量増加</li> </ul>
保税・加工 (注2)	1,417	2.5%	1,565	2.8%	147	10.4%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市販用食品の需要増加に伴う増収</li> </ul>
その他	2,332	4.2%	2,215	3.9%	△ 116	△5.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インバウンド減少による化粧品・雑貨の取扱物量減少</li> </ul>
【合計】	55,724	100.0%	56,267	100.0%	543	1.0%	

(注1)『共同配送』はHNIにおけるフローズン(DC事業)およびMUにおけるチルド(TC事業)を合算した数値になります。

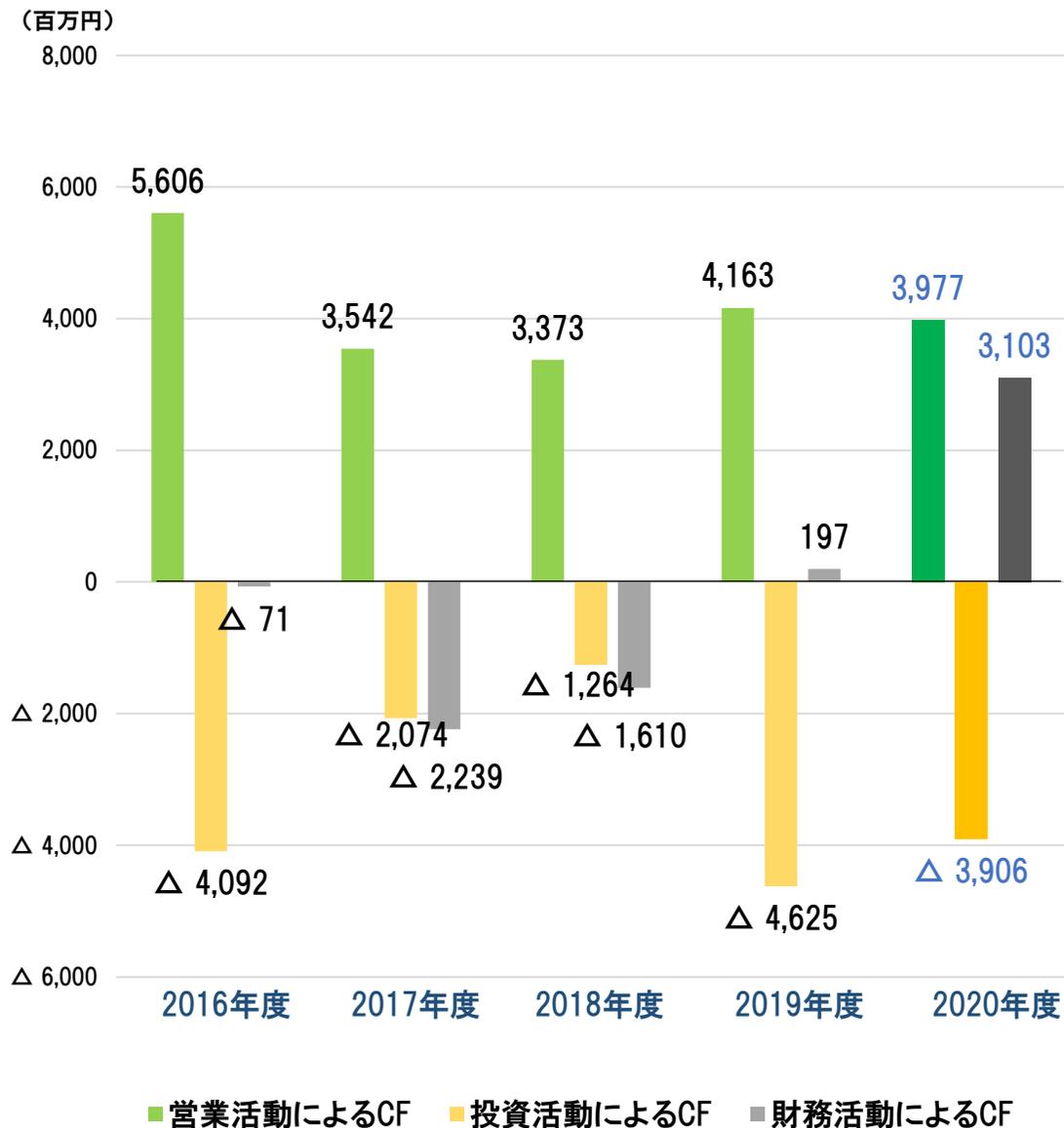
(注2)『保税・加工』はHNIにおけるDC事業での外貨取扱および野菜等のパッケージ詰め加工(ミックスベジタブル等)による営業収益を合算した数値になります。

# 営業原価の分析

(単位:百万円)



# 連結キャッシュ・フロー計算書



## ▶ 投資活動によるCF

- ・車両の代替・増車(122台)
- ・MU新埼玉物流センター建設 など

## ▶ 財務活動によるCF

- ・短期借入金の増加
- …コロナ禍による景気不透明感に備えた手元流動性の確保

# 人員と車両台数の比較(前期末比較)

## (1)人員の比較

(単位:人)

	前期末 (2020年3月末時点)	当期末 (2020年9月末時点)	増減	主な増減要因
<b>社員</b> (内、ドライバー)	5,150 (2,447)	5,393 (2,565)	243 (118)	・新卒者定期採用(80名) ・正社員登用による増加
<b>契約社員・臨時要員</b> (内、ドライバー)	6,526 (1,596)	6,520 (1,563)	△ 6 (△ 33)	・正社員登用による減少
<b>合計</b> (内、ドライバー)	11,676 (4,043)	11,913 (4,128)	237 (85)	

## (2)車両台数の比較

(単位:台)

	前期末 (2020年3月末時点)	当期末 (2020年9月末時点)	増減
<b>大型車</b>	657	669	12
<b>中型車</b>	1,521	1,528	7
<b>小型車</b>	468	469	1
<b>現金輸送車</b>	130	129	△ 1
<b>合計</b>	2,776	2,795	19

# 2020年度 通期業績見通し

(単位:百万円)

	2019年度 通期実績		2020年度 通期業績見通し <sup>(注1)</sup>				第二次中期経営計画 2年目(2020年度) 計画値 <sup>(注2)</sup>	
		構成比		構成比	対前期 増減額	増減率		構成比
営業収益	110,676	100.0%	111,700	100.0%	1,023	0.9%	113,000	100.0%
営業利益	4,856	4.4%	5,600	5.0%	743	15.3%	-	-
経常利益	5,029	4.5%	5,700	5.1%	670	13.3%	4,900	4.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,432	3.1%	3,700	3.3%	267	7.8%	-	-

(注1)2020年8月7日付で公表した2020年度の通期業績予想値になります。

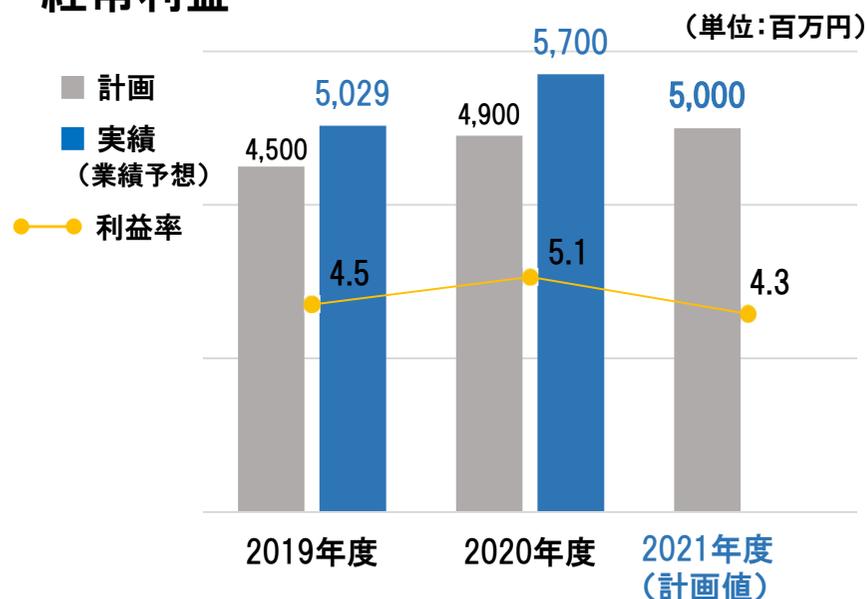
(注2)2019年5月8日付で公表した第二次中期経営計画の2年目(2020年度)計画数値になります。

# 第二次中期経営計画の進捗

## 営業収益



## 経常利益



- ▶ 低温食品の需要が堅調に推移し、取扱物量が年々増加。
- ▶ 2020年度はコロナ禍の影響により計画対比で減収増益となる見込み。
- ▶ 最終年度の当初計画では、大型新規案件の4センターが稼働開始となっており、増収を見込んでいるが、同時に固定費も発生するため、稼働初年度は利益を圧迫する見込み。ただし、コロナ禍が人の動き、物流ニーズの変化に今後どの程度影響するかは現時点で未知数。

# 第二次中期経営計画の進捗

## 新規大型設備の稼働計画(時系列)

・新型コロナウイルス感染拡大による若干の遅れはあるが、中期経営計画期間中に残り4つ新センターが稼働予定

MU新潟物流センター  
2020年4月竣工済  
同年6月稼働開始



MU新埼玉物流センター  
2021年4月竣工予定



MU新岡山物流センター  
2021年11月竣工予定



MU新関西物流センター  
HN箕面支店

2019年度

2020年度

2021年度

2022年度

HN蓮田センター  
2021年3月開所予定



HN中部支店第三センター  
2022年2月竣工予定



※現時点で検討段階の投資  
案件も含まれております。

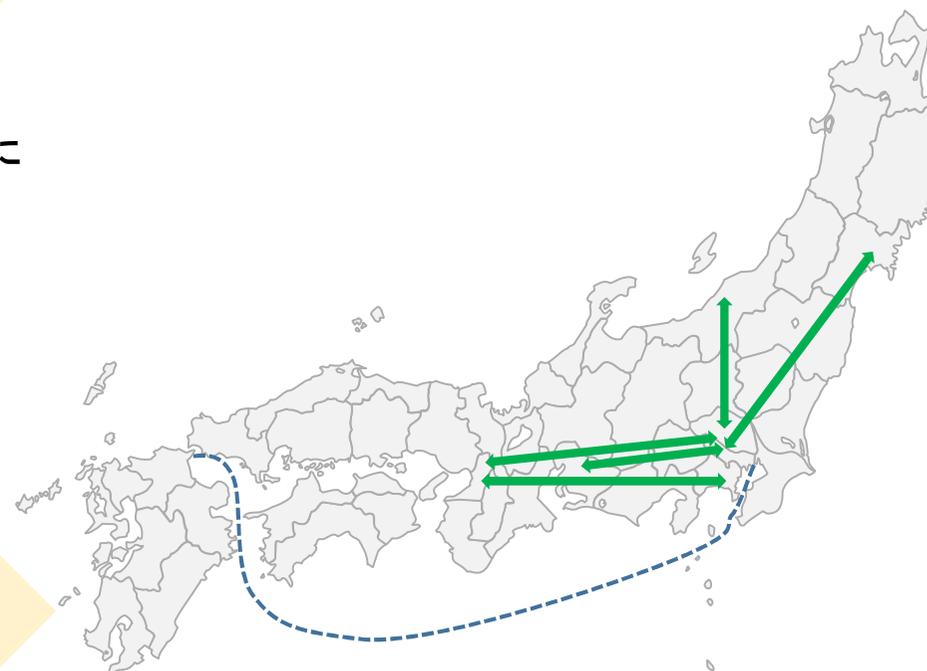
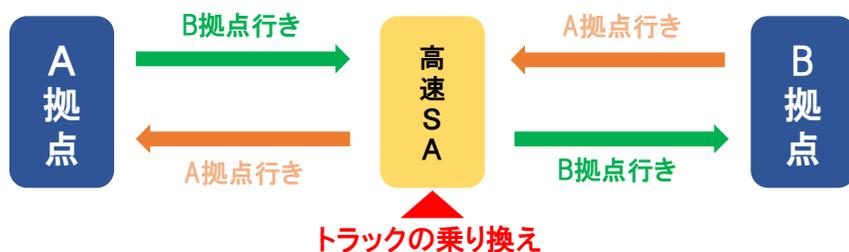
※完成予想CG図

# 第二次中期経営計画の進捗

## 幹線便の自社化および柔軟な輸送形態の採用

### 幹線輸送便の自社化 **5ルート** 確立

- ・第2四半期終了時点で約**500本**の幹線輸送を自社化
- ・一部のルートにて**スイッチ運行**を実施  
⇒高速SA等で乗務員同士がトラックを乗り換えて出発拠点に戻ることで、各乗務員の長時間運転を抑制できる。



### **船舶**を利用したモーダルシフトの実施

- ・2020年10月～:HNが商船三井フェリー(株)様のRORO船を用いた定期運行を開始【東京港⇄苅田港(福岡県)】
- ・乗務員運転時間:**1,873時間/年(83.5%)**削減
- ・CO2排出量:**87.8t/年(55.0%)**削減
- ・物流総合効率化法にて認定済み (No.220)



物流総合効率化法  
認定ロゴマーク

●主な幹線輸送ルートおよびモーダルシフト適用ルート



順次ルート・便数を拡大予定。

# 第二次中期経営計画の進捗

## 新技術導入・機械化による業務効率化および安定化

- ・2021年3月稼働予定のヒューテクノオリン蓮田センターにてロボットアームを用いた自動倉庫ピッキングシステムを2021年11月に導入予定



●導入予定の自動倉庫ピッキングシステム

- ・2021年稼働予定の名糖運輸新埼玉物流センターにて、TC事業としては最大規模の自動倉庫システムを導入予定(約4,000パレット収納可能)



●新埼玉物流センター完成予想図

# 新型コロナウイルス感染拡大への対応

2020年初頭より日本列島は新型コロナウイルス感染拡大の脅威に見舞われておりますが、当社グループは「暮らしに必要な食品への物流機能を提供する低温物流企業」として食品の生産から消費までのコールドチェーンを途切れることなく繋ぎ、日々のライフラインの維持に努めております。  
営業拠点・事業所で働くすべての人にとっての安心安全な環境づくりを最優先に、感染予防対策を施しております。

## 各営業拠点における感染防止対策(一部)



- その他
- ・アルコール消毒液設置
- ・入社時の検温義務化
- ・Web会議への移行
- ・ハンドドライヤー禁止  
など…

受付(社会的距離の確保) 日々の消毒作業



飛沫防止カーテン・アクリル板の設置



## 従業員への支援策

- ・小学校等の施設が臨時休業した際に、保護者として子供の世話をを行うことが必要となった従業員に対し、特別休暇の付与
- ・全従業員に特別感謝金の支給

低温物流の新たな価値を創造します。



- ※ 本資料は、2020年度の当社の連結決算公表時(11月9日)の数値をベースに、作成日現在(11月17日)において、入手可能な情報に基づき作成したものです。  
今後の業績等につきましては、様々な要因によって変動する可能性がありますので、お含みおきください。
- ※ 本資料は当社グループの決算概要をご理解いただくことを目的として作成したものであり、株式会社C&Fロジホールディングスの株式等の売買の勧誘を目的とするものではありません。

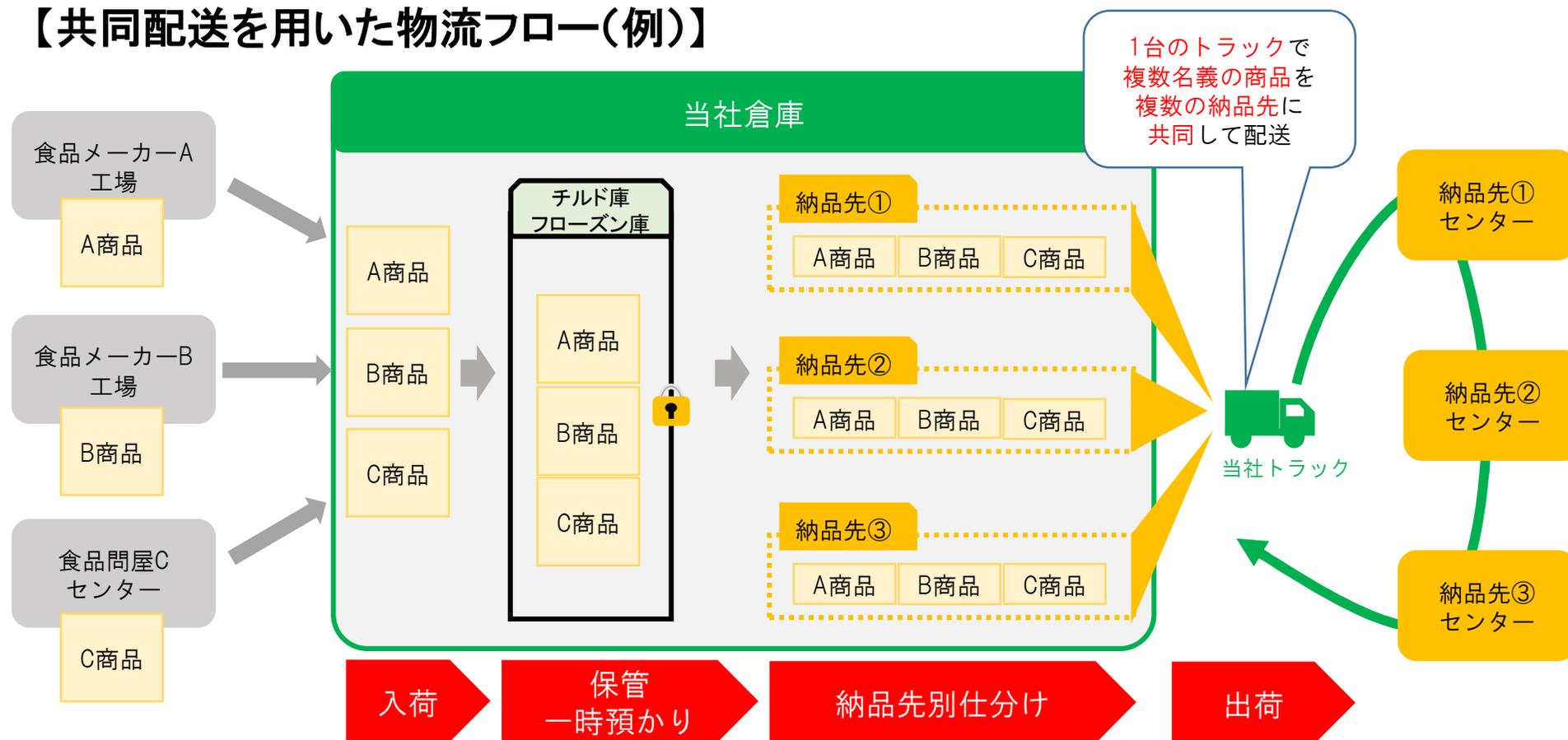
本資料に関するお問い合わせ先  
株式会社C&Fロジホールディングス  
TEL:03-5291-8100 FAX:03-5291-6150  
広報IR部/団 俊貴

# 参考情報

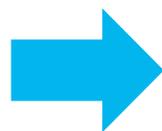


# 参考情報 -共同配送モデル-

## 【共同配送を用いた物流フロー(例)】



荷主様が自社で配送する場合 ……荷主様ご自身がトラックを用意し納品先①、②、③にそれぞれ納品  
当社(共同配送)を用いる場合 ……当社倉庫への納品のみ



- ・荷主様の物流コスト削減が可能。
- ・物流フロー上のリスク移転が可能。
- ・使用する車両台数が減ることで、排気ガス排出量削減。

# 参考情報 -事業概要-

## TC事業

Transfer Center  
通過型センター事業

365日24時間体制で、主に**チルド食品**を中心とした低温食品の物流センター業務および輸配送を行う。

→ **保管期間が短く、ほとんど預り在庫を持たない(≒通過型)事業モデル**

### ▶ 共同配送事業

異なる複数の顧客から商品を預かり、届先別に仕分けを行った後、混載にて輸配送を行う事業。

### ▶ コンビニエンスストア物流事業

コンビニエンスストア各社の商品センターの運営および店舗配送を行う事業。

### ▶ チェーンストア物流事業

スーパーマーケット等の量販店のチルド・ドライ商品の商品センターの運営および店舗配送を行う事業。



拠点数

関東地方を中心に全国97店所  
(協力会社除く)

主な取扱品目

■市販用チルド飲料・チルドデザート  
…スーパーマーケット、コンビニエンスストアなど

■市販用ドライ食品  
…スーパーマーケットなど



# 参考情報 - 事業概要 -

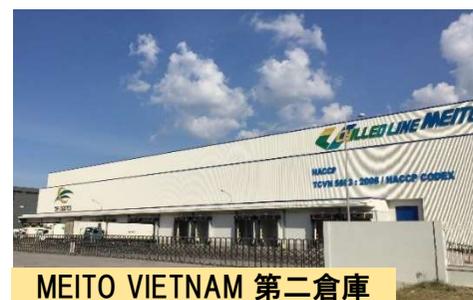
## DC事業

Distribution Center  
保管在庫型物流事業

主に**冷凍食品**の保管・荷役および輸配送を一体的に行う事業。  
当社の倉庫内にて多様な寄託貨物の保管・名義変更や車両別・届先別の仕分けを行うと共に、専用車による輸配送業務を行う。

➡ 保管期間が長く、**預り在庫を持つ(≒保管型)**事業モデル

- ▶ **共同配送事業** 異なる複数の寄託者から商品を預かり、届先別に仕分けを行った後、混載にて輸配送を行う事業。
- ▶ **病院食材物流事業** 約3,300の医療・福祉施設等への給食用食材を仕分け・配送する。
- ▶ **海外(ベトナム)事業** ベトナム社会主義共和国において、主に冷凍食品の加工原材料の保管、荷役、配送を行う。  
("MEITO VIETNAM CO., LTD."、"T&M TRANSPORTATION CO., LTD.")



- 拠点数 関東地方を中心に全国27店所  
(ベトナム・協力会社除く)
- 主な取扱品目
- 業務用冷凍加工食品  
…レストラン、病院、老介護施設など
  - 市販用冷凍加工食品  
…スーパーマーケット、コンビニエンスストアなど



## その他

主要事業であるDC事業・TC事業以外の物流業務に関連する付帯サービスを中心とした事業

- ▶ **警備輸送業** 警備業法に基づき、首都圏の金融機関で取り扱う現金や手形などの重要書類や、貴重品等の警備輸送を行う。
- ▶ **病院等関連物流業** 病院はもとより老人ホーム、老人健康管理施設や薬局まで関東1都6県約2,000件の医療福祉関連施設を対象にリネン類(シーツ、タオル、白衣等)の配送・集荷作業を行う。
- ▶ **人材派遣事業** 乗務員、倉庫作業員等、物流業務に特化した人材をグループ内外へ派遣。
- ▶ **保険代理店業** 車両を中心とした保険商品をグループ各社、取引先、従業員・従業員の家族等に提案する代理店事業。

など・・・